

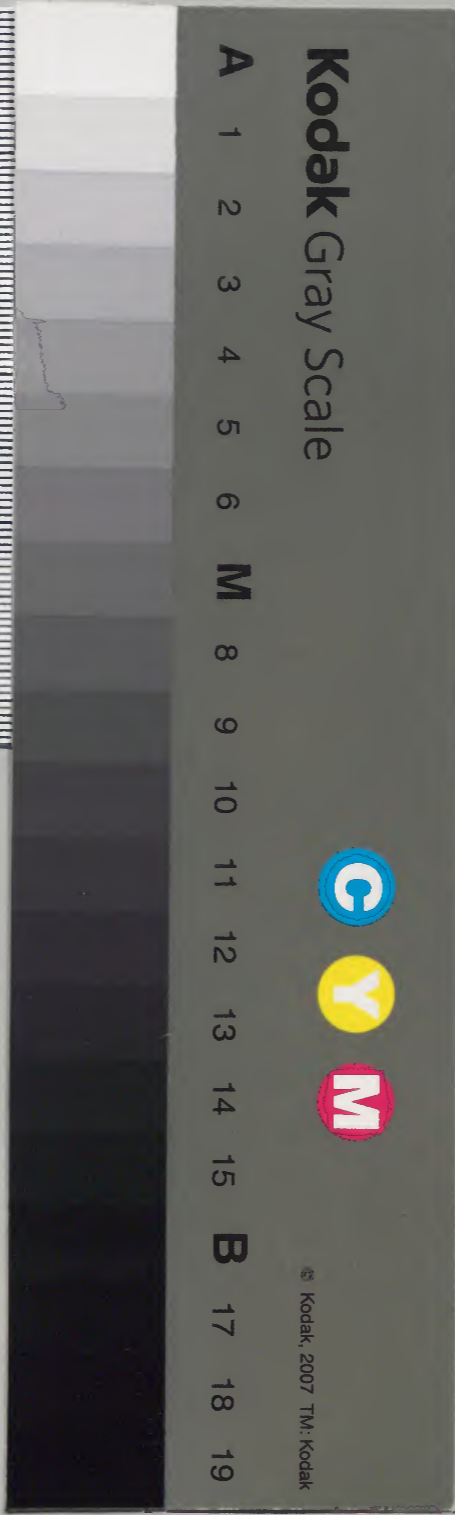
三輪物語

六七八

和書門			
二七二八五	九一	三	六
號	函	架	冊

內閣文庫		
二七二八五	九一	三
號	函	架
和書類		

內閣文庫	
番號	和 27285
冊數	6 (3)
函號	182 370





熊澤先生之編物語卷六

明治十二年購求



天の涼天津彦火瓊杵尊ハ尚社の所

濱少子候々此皇の御皇と成りひぬ久山

祇神の女子亦花開姫を妃とす

火酢芥命と彦火くお見尊の二胃子を

生かす兄の火酢芥命ハ海の幸れり

まじハ父の尊り泊のしほりの授り



才の産大くお見事ハ山の幸托リ一老ハ
父の幸より弓袋換り少を後才の命ハ
こは幸かえんと宜ひくく此の是ハ昔より利
を得たりは兄の命て才の弓矢かへり
己の才の泊より此の是と宜ふ所才の
才の泊より此の是より新より一と
のあつた兄の命小児のこころきうたして
人々つらうくく此の泊より何してハくをた

ましとくせ免るるや才の命をあり
二の泊より一と行て海賊よ今ひりあま
造り浪士の老翁といふ志なり何をまこと
なりてまを神宮よみちひささむり鏡よ
うしとく泊より一と行り何より才の泊より
此の是は泊の是を神神と一と行り又潮後
珠と潮洞珠との二の玉とまを名を玉よ改
めひて兄の命よ泊より一と行り何新

神のつゝえき方まゝは貪欲としひく
しは先の命いりひくを附方の
あけ川をわたりはたらしまらう
海とぬく先おのり死うんは先の命
てこひのふ附志はひくわたりはた
の平地とぬぬ先の命のひよ方のまは神
法たりまゝは及ひるまをうりひ
て后とぬりお神津やもすきハ風

て火酢芥命の泊りまひより火くお
見のまハ風ぬまも物の利えりお車かり
すき火くお見ま二年記言ははひ
附神女は幸して生りお所子と産後漱武
うかやつふ不念言と尸はぬき不念言は依
ぬを妃として神日本磐余産言生り
是を神武天皇と尸人皇の始まら
しまたは之處士云先火酢芥命と産

大くお見方のふいふに ひざしを侍りよ
兄ハ娘より利よめてし友愛の白すし
才ハ娘ハ三川りの中より何をもちて兄
の貪しきたるよりなりハ才順のたより
絶きしと後よんぞやまししと志かひし
事ハ首尾せむ物よ才の事注りしと
侍も才ハ程ありたけり後世のたしえの
為るとし中ハ程心あらうる事之かしえ

しむる事年ハしむる事しむる事
長年の秘妙もの流るるたかき侍り君を
いふ事免しりやとまをかりしはかき侍り
よ老翁ありむとていいたまはしりあり
なる人この事と注しりも爵ありも
所社の末よしとてあはしりしとまをかり
りるましと事之天の津流し源よあま流り
りひしと注をうり注をりちとて天よ二ツの目

の事一とくかく事ひし即社にん明人位
にぬ神祇の事ハ位位をついげ居るは
才唯之を之とくまはる府處士立か
て王公ハ賢者の法を多しハ賢者ハ
王公の位を多しハ是に王公も位とト
いぬ人なりて後天下平ハ國治是り賢者
も王公も容るる法も後ハ大業を紀
下ハト法を友とす名ハ玉君と之も匹夫

の貧賤を之ハ匹夫と之も玉君の位を
之ハ法と位と相和ハ其賤友と名之
今老翁と公達も又也是とく對我ハ是
をり公達師ハ之ハ處士の名をハ老
翁ハ漢リ何之神書ハカハ法多
一とく之とセハ十もカハ法ハ老翁
此事昔物志事ハ神多ハ字法ハ神代ハ
私照ハ新親ハ一人ハ天下を治ハ

我天下の君たるを以て君を以て
御進も天下の人民を以て御進
たきよむるの御たのしき事
てむの御たのしき事
天々トク一より君たるも人君の御
れりも世も庶人のいやさかひ
さふえぬぬは是もいづる食も
かふしとたは君一と御り一と御り

て安堵一より君子は夫は夫
いしと夫は夫と夫の義之御
と云ふは御一と天々トク
才の事をせんとて天下の財を
あり多々の御と云ふは
きり才の事の海中に入ると
より少御多御より御知に
たりにしと人君の御が御を

さうりー一振は先の命よむことともこう先
治るゝ海の底までもおとやまゝく治る
まづりやふる振の富言へ于珠波珠の
たると凡情の人カハ一旦治も情やうれ
も天定り耐ハ又く人小情の理まゝ免
角カハ治は敵すもすあゝぬ拘へカとい
治はかゝんとすく水火はむらゝくと富
云一たぐへんの言もく物まを定人も

治ハ君之口ハ臣之天也一民有るよの
多治ハ人君之天也一民有るよの
有者ハ人民之カハ治ハ治ハまけく一り
是も人臣とぬぬ言ハりくも治ハるま
も治ハるま一してこゆ屋くもく一
ててまゝハ治ハ人君とぬぬ言ハるま
一なり唯志りく世俗の詞をうて治と
カと人と天との辨ひをりたり先の命

印公は愈々方相一人の印公三一人に相
風取は時を一人の印公三一人に相
風取も時を一人の印公三一人に相
若とれりし此先身の時を一人の印公三一人に相
愚よりし風取は侵るきり初ハ海取
多し後ハ海幸も多しと云ハ天命の分
を安んずしと云を海取ハ外をむるなり
り少取しと云家業をも多しハ其をとり

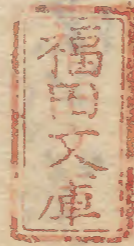
神書ハむしりの徳ハを多し書くは多し
後ハ書より多し多しハ徳の学ありし
取ハ富言の多し多しハ徳の学ありし
すとも莊周の多し多しハ徳の学ありし
ハ多し多しハ徳の学ありし多し多し
流くは多し多しハ徳の学ありし多し多し
てんを多し多し多し多し多し多し多し
てと富言ハ多し多し多し多し多し多し

ハ惟すくし書てふあてし海を公貪治
のりひしし帰ししあす正業の可也
ハ相急せんいししたるりそかりし
あり公進云河の書の脚はしりし唯正
よ夏の脚はしりし庶人の業ハ多しハ貪
しししし物之富人と外進ハあす多
しししし河の業ハあすそ日名ししし
すしし業ハ貪ししし勤りしししし

天命の分量かしのししし河すきハ
其利を利しし其業をたのしむありし
お情をいひし其のましししし
りあて凡史ハお情をいししし
しししし之後はししししし
腹をすりし物之神をのししし
しししし腹を志しし凡情を述しし
史を富言のはしし凡人の上はしし

熊澤先生三編物語卷之七

社家云日本ハ神國トシテ四海の中ニ
テクニテトシテ神ノ在リテ經典海ノ
ニテ復ハイニテ名復也公達曰イニ
ヘノ神人ハ天地ヲ書クニテ物ヲ文字トシ
神ノ分リテハ天地ヲクニテ地ヲクニテ神ハ
天地ノ法ノ人ハ百物ノ長ノ由ハ神明ノ



いうまに——人かこりて之造物者に經
 典ありきまも日月かりてく——
 たりあるあり神の法ハ風のそと蒼生ハ
 草のこし——不知不識天の別と志しう厚り
 既と天神の神代をく地神の神代もま
 るそく人の世迫く成ぬまハお——
 ハ人なるまかり——是左に神明の法をかり
 たり之種の象をつらきせり因縁所ハ
 ハ咫の鏡之神筆ハ八坂瓊の曲玉之宝鏡
 ハ草稚の鏡之鏡ハ知法の象之玉ハに法
 の象之鏡ハ曾法の象之鏡ハ心の神明よ
 して虚貝不味なるまかりとまかり
 てハ日光と——半はまかりハ正並と玉ハ
 心の温潤よ——急愛恭敬なるまかりと
 まり天よまかりハ月光と——半よまかりハ
 委曲と鏡ハ心の剛強よ——と堪忍截

知も人の象と成るべきは、
てもたりん流りよ大流を
善小知を戒りし之同変を好
の知を月智の大知の八咫の
人の知を月智の八人よ
是れを、
流りよ大流を戒りし之同変を好
の知を月智の大知の八咫の
人の知を月智の八人よ

せまる是れ一候なりよ一
易智よ一
大知よわ
此者の象と成るべきは、
よ曲を月智の
愛の理へ愛すりよ
物へに愛の心は至誠
すしりよ

蝶蟻の小虫よ到るまじく 洋小しとたりし
りりりし生暹の至誠なるる處に且父ハ子に
おまかくし子ハ父の爲まかくは直きまま
中よりりに愛の委曲ハ天理の在る大衆
の醫叟よ事そりしは時々ら折の難きを以
りしと九事といふはトして八坂と云ハ志子
ハ易よ指く命をま何の意に人ハ民を
意多ク父母の志子をたれりしと一教治し

の如き曲おのりしは求まはらりし
すも之をもをわたりし同海ハ始よハ天の村
雲とより茶菰ハ日本わたりしとまきり
君への心をむしりまはらりし茶菰ハ
中のひと器しとより茶多しとて君子の
法ハ風ハ人の法ハ茶之威勝愛すり付ハ
誠よ赤の菊之 同法法を日光よ比すりま
いりし善大陽也よかりしハ天下にかくる

物あり法立しとくくさきくそ故とあり
事ありしは自然と云ふは知明ありけ
きハ天下のまじりなき物あり一四明とくく
さききく軟く事ありしは自然と云ふは
法と月光と比するは春陽生物の象
聖なる所ハ日光も夜もくくくは日月あり
すも物曉へありす先ハ急あり一人
て察すきハ徒あり一月夜ありくくありきとも

からるなきくするを知らくそ急を去きとも
急をかくくくそ急をけりありくの直を
ありくありくのまききりすてく大知を
愚かりくく一罰と大なりとくく急よく
一法を星光と比する半ハ星光全の
散氣ハ極二十八宿の法星ありく
そ是本をなれとくくたり事あり
剛法とくく間断あり一四明法を極と

位ハ知の明くくも湖なり乾元亨
利貞も之種の象より進り此玉の至と
なりなりなり天照太神の皇孫を天清
彦く火瓊く梓るとトも此神の仰知は
知に曾流注たりまは左よ之種の具室
なりなりなりなり火ハ此神の注
此火の光明なりこと此を云流の象よ意
す瓊くハ此神の注此玉の温潤なりなり
なりなり別玉の象よ意此梓ハ此神の注
此玉の温潤なりこと此を云別玉の象よ意
す之種の象たりなりなり是も皇の仰知
は此注なりなりなりハ天下の此此なり
なりなりなりなりなりなりなりなりなり
其教なりなりハ天下のなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなりなりなりなり
自りなりなりなりなりなりなりなりなり

月星とありとくまどへは夏の甚しき
天地の津道ハ飛象なくして人々の姓と
なる名字ハ唐のそれとていひせよ琉球の
とをきくしひもせよ高天原ハ天地一源の神
道之御より中夏重人の道とていひ男神
皇の道とていひ日月とていひとていひ
日本の神なるてもあり中夏の重道と
てもあり又厚くそなる大虚の道とても

あり天地の冒に何の益同し春ハ花候
夏ハ草葉茂きなり秋ハ紅葉一実のり
ハ切しきり葉切川春の花ハ一ち之とて
夏のみよりハたのめらとて秋の陰ハ
きりらとて冬の花ハいりきりこと
是に何の和とて天地の七情ハ天地
の津道とていひとていひ唐日本た
り事あり洋とていひとていひ漢和并るを春

と唐一七四和と九まゝ人の生を海白
の果業と成浪八日如のち地又生す夕を
九行て中世に海もよ用を連成文字ハ
唐の文字と成るを記憶と成御達とも人
此まのさかゝる玉よハなゝひと事あ
を成公の一貫の法性精明とてさ達を人
同神明傳授の秘密ハいゝ善法あると
のそ及人キるまハ波をさるる人
ハ知く是なるま支之唯神秘ハ神秘ハ察
一なるるゝ人の中表此聖人の天地を
神通とてり用ひりもた正公脩牙
祇家治國の用をな成屋を成のて是を
志る也ハいゝ一たり成を成ハ志る一也
て用ひ一志達ハいゝ一人の惑のを
と成達り知るハいゝ敬鬼神遠之と鬼神
の鬼津キる法を志る財ハ心至誠純一を

何事のたりにまたとある事も

かゝりけりたに汲る事

と云のまの味より公の誠敬を以て
りり公の誠敬より公のまの味を以て
ハ神社よりハは屋を以てして
味盛服のまの味を以てして
是れを恭敬の公を以てしてハね
同之種の事も又神秘なる事也
象の公法ハ上天子より下庶人
身を倫りて以てするの義之
公一に治るるの義を以て
左様よりハは素よりハは素より
毒殺の公法ハ上天子より下庶人
ハは素よりハは素よりハは素より
ハは素よりハは素よりハは素より

の神意ハは素よりハは素より
象の公法ハ上天子より下庶人
身を倫りて以てするの義之
公一に治るるの義を以て
左様よりハは素よりハは素より
毒殺の公法ハ上天子より下庶人
ハは素よりハは素よりハは素より
ハは素よりハは素よりハは素より
ハは素よりハは素よりハは素より

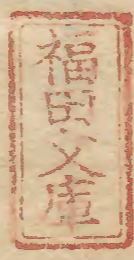
ありて是を以て其の神の用へ遣はるるは
神の志を以て其の神の用へ遣はるるは
退け去るるは其の神の用へ遣はるるは
て病を以て其の神の用へ遣はるるは
一 遣はるるは其の神の用へ遣はるるは
一 遣はるるは其の神の用へ遣はるるは
の志を以て其の神の用へ遣はるるは
たの志を以て其の神の用へ遣はるるは

不測の理を以て其の神の用へ遣はるるは
一 故に人の道を以て其の神の用へ遣はるるは
一 故に人の道を以て其の神の用へ遣はるるは
一 故に人の道を以て其の神の用へ遣はるるは
一 故に人の道を以て其の神の用へ遣はるるは
一 故に人の道を以て其の神の用へ遣はるるは
一 故に人の道を以て其の神の用へ遣はるるは
一 故に人の道を以て其の神の用へ遣はるるは
一 故に人の道を以て其の神の用へ遣はるるは
一 故に人の道を以て其の神の用へ遣はるるは
一 故に人の道を以て其の神の用へ遣はるるは

その津より東に神は天日のよりくむと
止るのより水邊を造り日影のよりあり
水より造り糸も又よりあり水邊を造りた
のよりみゆき造りくたしむ感と感さるの
いづれに宇宙のより神のより玉のより
身のより白くまを名とりか敬く白くを
まはし一人の神のより一神のよりあり
公上より一氣のより水邊のより神をけり
まはしより罰をまするよりくた声の意
まはしより一神のより神のより神をす
一先より神のより賞をまはし奉り神の
よりまはしより一神のより天照宮より
壇く梓より一神を授るよりひく唯流
のより一神のより一神をんまよりあり
より一神のより一神をんまよりあり
公達より神のより神のより神のより

別を去ひり之は是の愛と血氣の曾
と明を失はず佛の慈心殊勝なれを
愚之智曾のぬハ剛の進も終ハ如を不
ろり此物之若く明を失ハ之は下流を物
きりハ何ハ玉涙を伴ふり知に曾の之流
物りハ何ハコトより

熊澤先生之痛物法卷之八



福至云申子本来の面目を以て吾道も
又所りや居士云我者人よりて天余の性
別即来の面目之是正一物の内を以て性か
一之の之を詠よ云

我性の人はかく進みて去る進路ハ

さうもはたあふしうあつらん

大學致知の旨ハ格欲ニテ達スルニ至ル時
之ハ性ヲ知ルニ先ク之ヲ格ニシテ

我性ノ欲ニテ達スルニ至ル時ハ

格ニシテ知ルニ至ル時ハ

大人ハ君子ノ如ク夫ハ一物ニシテ是又母ノ
胎ヲ剖クの時ニシテ性ヲ知ルニ至ル時
ニ至ル云

我性ノ如クニ至ル時ハ

性ニシテ知ルニ至ル時ハ

夫ハ天地ノ如ク我知性ノ如ク夫ハ
夫ハ夏ノ一夫ハ物ヲ生ずルニ至ル時
ハ秋ハ実ノ如ク夫ハ
夫ハ冬ノ一夫ハ長ニシテ秋ハ実ノ如ク夫ハ
夫ハ春ノ一夫ハ長ニシテ秋ハ実ノ如ク夫ハ
夫ハ夏ノ一夫ハ物ヲ生ずルニ至ル時
夫ハ天地ノ如ク夫ハ一物ニシテ是又母ノ
胎ヲ剖クの時ニシテ性ヲ知ルニ至ル時
ニ至ル云

人と同一く大學に入らば學問少流行
の道ハ六十六十はあり是も唯學の及
ばざる事を知りたのこよとて出天子と
ての榮耀欲をばたれしむりた士民は
亦も賢なりは、流り度只事たきハ
まゝとて先帝の内よとて一字は賢は流白の
公を天子流候は老君と知君は揚政
と申是れハ一もは君所老来よとて印

子ハ一若くわつて老ハ流居と老ハ國政
をりしつ之り之中は流のすは進て
世に流りあつ揚政のさくはは之りハ
歳年とて一も如是を言ふと天下國家の
政道はつとて進りハ事の進ハ市民の情
まゝも進りハ志流ハ事之君の天年
久ハ一もは大學の流り政の積功
をさる事と欲よりハ流居の苦言

と川中かたはりしまき後世ハ君の
即子と河邊ハ大守も入りし君と
玉政も物なりし君の法を徳と
是れも是れをよみありし君と
もええ日ん君しるも河邊ハ限
てのふらふ君しるも河邊ハ
めく心かしの君定りし君と
しつと君しるも河邊ハ限

歳師りし君も川の徳を
流ハ下もくちの君のしるも
徳もいし君もいし君もいし
徳構も拍毎し君もいし君も
下の徳もいし君もいし君も
威ハおちし君もいし君もいし
川中ハ酒飲のし君もいし君も
中もいし君もいし君もいし

位より上をさうるといふ義之者人のあま風
凍したる古流よりゆきを厚つてひきも
忌むかりて酒飲の夏より丸ありきる
古の流のとも天下のまじりも玉君の子も
学校に入らた人となりて修治を志せし
いつまもて代を厚く天下をたもたぬ
練後の景虎八十にして順礼と因なり
て銀難を厚く衣將と成りしあり

下をさうる人の暗く志す所の事といふは
初めのとて流の衣の即才流の事なり
衣を日よゆきひ侍もとも生きたる上ら
よ可いつきすつて進のひきゆきも人つ
かそは志流より進流は大方十人あり
すりて即生質より八十人並りたる
かす才流のともいふは志の在りたる
思をたしきく政道を以て侍進はた

ソノ事も入侍は又此洞と申侍る天
ノ二ツの目あらん事を祀とまきくわが事
違業の仙境入りひく世中の事をさす
一石ぬきよれりしは海を舟のこ
仙洞も禁中の中をあらはし一石二ツ
の目まきわりしは天の事
よまきく人道よまきく
すくはくも世の事

故の事此宮入りし法を以て
同之御言と申も起事ゆき事
一善正一不善よくハ
より事ありて是れ
て天よの事なり
日なめくハ天智天皇も
知りたりし事
即位を譲りし事

よ世故事をたけりしとて王者の隠居
を脱履とハト人世世よたりしとて
知りたけりあすハ如く起る事ハ院の御所
を他洞も中侍り同仙家の語ハこれ
作らばまゝ侍連ハ夫を流擧とトて
唯今人道よ沙の世りあすハとて
事ありしや善をなす事ハとて
之虚流の実ありともまゝ世中を此か
に

よとてハ一道もハとて
已右祖と云ふ事ハ初りて
の人間の死をまぬりし
神と云ひしハ中ハ道理
ハとて善をなす事ハ
の地獄をこりつとて
侍り黄帝仰一人ハ
此長命とて後世の爲
とて

一くありし別也身よりけりひきくぢよ
至聖人ありてハを功すみや之形脚也
糟粕比一魂宗魄脚をのせ至よ一
て知屋うらるの神ありてハ道唯神人形也
至よ変化一々を元年を終りハ時よ至
仰く何の強りり上理也之同御る至帝
ハ至人の中よてもすくまのりハ至聖ハ至
人の端除之凡人のれとなく至く至子
の学ひ一々之たり人ハ至欲得悟のとき
月よく養生の事と祈り元たりハ至身ハ
天性孝弟仁慈よ一て又器用なるなり
ハ長生不死の術をうらハるるも侍る
一ツの炉火のよ一か一氣ハ庚となる
事ハとる一ハ至一庚よ一は之至ハ一時
至ゆる物ハハ時も至物よく侍り長生の術
の白身よとなく物進も人毎よ学くなる

登るにありては其を天姓の如きものとす
の地性として之を先んばありてあり
へ一同聖人の緒餘を天帝ハ事として
も他の聖人の如きも亦此の如かり
まゝにありては善者山の燒中を通り
て身をもたしむるも或人子貢は問
ふ所理ありや子貢の云は理あり我は善
とも火中に入らざるの徳あり一同孔子は
登るに善孔子はたよりしともありみん
ともありては善者山の燒中を通り
燒中よりして聖人の善者も尚てい
知るにありては善者山の燒中を通り
の如きこと人如きハ尼多ありては善
たまひ又源氏を識るもあまハいと
て自ハ善者せしむるもいと善
公達をうたうるも善者ハ世は源氏を

さるる人と識りたると見侍りよんるる人
かこりく識りたると思とあつむる人
先ハこれと侍りたると中人以下の人の
さるる書よりたると多くハ漢書と
つて見侍りたると思と侍りたると漢書と
聖書と侍りたると思と侍りたると漢書とハ
谷別の中へその中和漢の書多し侍りたると漢書
のさるる侍りたると思と侍りたると漢書とハ

ともさるる侍りたると思と侍りたると漢書とハ
よあつむる侍りたると思と侍りたると漢書とハ
く書て自の侍りたると思と侍りたると漢書とハ
識りたると思と侍りたると漢書とハ
たり白書小人侍りたると思と侍りたると漢書とハ
ありたると思と侍りたると漢書とハ
とせんとして侍りたると思と侍りたると漢書とハ
実ハかく侍りたると思と侍りたると漢書とハ

少時少るといふをれどもかたきなす物言
進も人の心をもと人々もいふは是れ
世人のいふ言の戒といふ物に相違は侍
る身源のそよよハ重人と重人なしてハ至
情ハいふきうの物ハ書証をんもははる
あきき侍りそ外ハ上る人ハいふ及ん
秘をうわはり又ハ兄弟習子もくも秘
とハ懐とる物ハ是ハ固く地り物言

くもく本人の至情を述く人ハ物言を
用ひる也男女の別を立度きハ根をいへ
たふハ上る言作り物言とれり物言はる
物言ハ唐を和よとるハ首を今ハ物
言を首とらるといふは流弊ハ多
二ハ上らる物言ハ男女とも是ハ物言
いハ物言ハ物言ハ物言ハ物言ハ物言
物言ハ物言ハ物言ハ物言ハ物言

上らうの人揃はら清くくもたを
れしきさかしくも厚くくも
しつゝささるふんのかくもか
やまの寛局はあまのりつた書を
とるふとあつて物之是夜より人
まうをわたりしよは上代の清和の風
書へやすしうろの文字のやうに
かけは後くはゆよもてくは資を
ある厚き

候作らるるものごとく
あまのりつた書を
とるふとあつて物之是夜より人
まうをわたりしよは上代の清和の風
書へやすしうろの文字のやうに
かけは後くはゆよもてくは資を
ある厚き

下の乃更之古の初を——源氏と云くハ
る——中人以上の人の詩の氣をまじり
て美を——無——中人以下ハ詩の氣をもと
て美を——無——存子と云くハ
尋常の好をある人もまじりて
の好を——無——
唯昔物語——
公家のは樂を——

系——つらきり樂のすめとハ詩ハた元
たる半のすも源氏を——
ハ物語たるハ絶ぬ處もす——
情を——書りてハ天下中
か——
——存子と云くハ
下ろりん山人の爲の政を——
てハかたはる之或況ハ

詩歌への治分は物治のやうなるを物治は
詩分よりもたれたるなり詩分の志うるを
あつては昔のをさうひいと叫りんる
を言ふれ可なりは詩を学ひすは
物りありとありきの言むありは
別時ありありといひ書しは
紀の文は博学の人多り日知の史を書ん
とくし書しは書きくくありたり

式部内々物りたり



